

RIETI EBPMシンポジウム パネルディスカッション資料

2023年3月22日

「EBPM－エビデンスに基づく政策形成の導入と実践」

石田 直人

広島県におけるEBPMの現状と課題

令和5年3月22日

広島県経営企画チーム 主査 石田 直人

広島県のEBPMの歩み

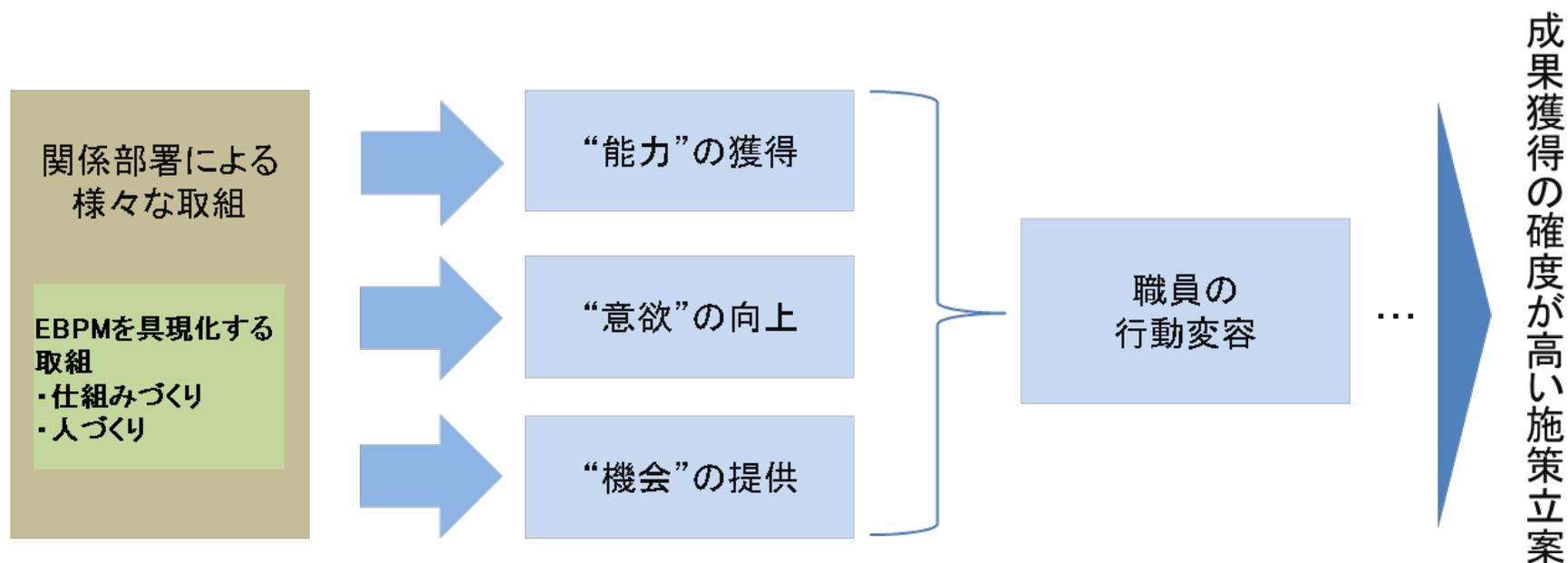
段階	概要	主な取組 ※研修等の人材育成の取組は省略	
準備期 (2015～ 2017年 度)	「エビデンスの質」という新たな判断基準を導入することで、広島県の既存の施策マネジメントをどのように改善していくのか、という方向性を見定める時期	2015.5 2016.5 2017.6 2018.2	日経新聞経済教室「政策立案力高めるには」(内山[2015]) イギリス・ブレア政権のEBPM重視・エコノミスト採用増の施策の紹介等 ～知事のEBPMへの関心を高める契機に 知事英国訪問 経済産業研究所「日本におけるエビデンスに基づく政策の推進」プロジェクトの研究会への参加 EBPM推進基本方針策定
試行期 (2018～ 2019年 度)	数年間実施し、一定のデータ蓄積のある施策の効果について、因果推論の手法を用いて「事後評価」することで、分析評価のノウハウを蓄積させる時期	2018.4 2018年度 (通年) 2019年度 (通年) 2020.3	EBPM推進ワーキンググループの立ち上げ モデルケースとなる施策を選定し、分析評価(5施策) 施策の分析評価(5施策) 「既存エビデンスをつかう」マニュアル書の作成
実装期 (2020年 度～)	施策の本格実施前にかじりめ成果検証スキームを構築することで、成果獲得の確度の高いPDCAの仕組みをつくる時期	2020年度 (通年)	施策の本格実施前に評価設計 ・避難行動意思決定モデルの構築 ・自分の避難行動計画(マイ・タイムライン) 施策の効果検証 等
	EBPMの考え方や、エビデンスをつかう・つくる行動様式を庁内に浸透させる時期	2021年度 ～2022年 度	施策の本格実施前に評価設計 ・避難行動意思決定モデルの構築 ・健康経営の推進に向けた実証実験(RCT等) 指標間の連動性評価の仕組み導入 主要施策のロジック確認(ロジックツリー、ロジックモデル作成等)

- 現状** : ○ 本格実施前にエビデンスをつくる事例が創出されてきているが、一部施策に限定されている。
- 本県のEBPMの取組自体のアウトカムとして設定している、「能力の獲得」「意欲の向上」「機会の提供」が十分に図られていない。

- 課題** : 全庁的な施策マネジメントの中で、「エビデンスをつかう・つくる」ことが検討される仕組みを構築する必要がある。

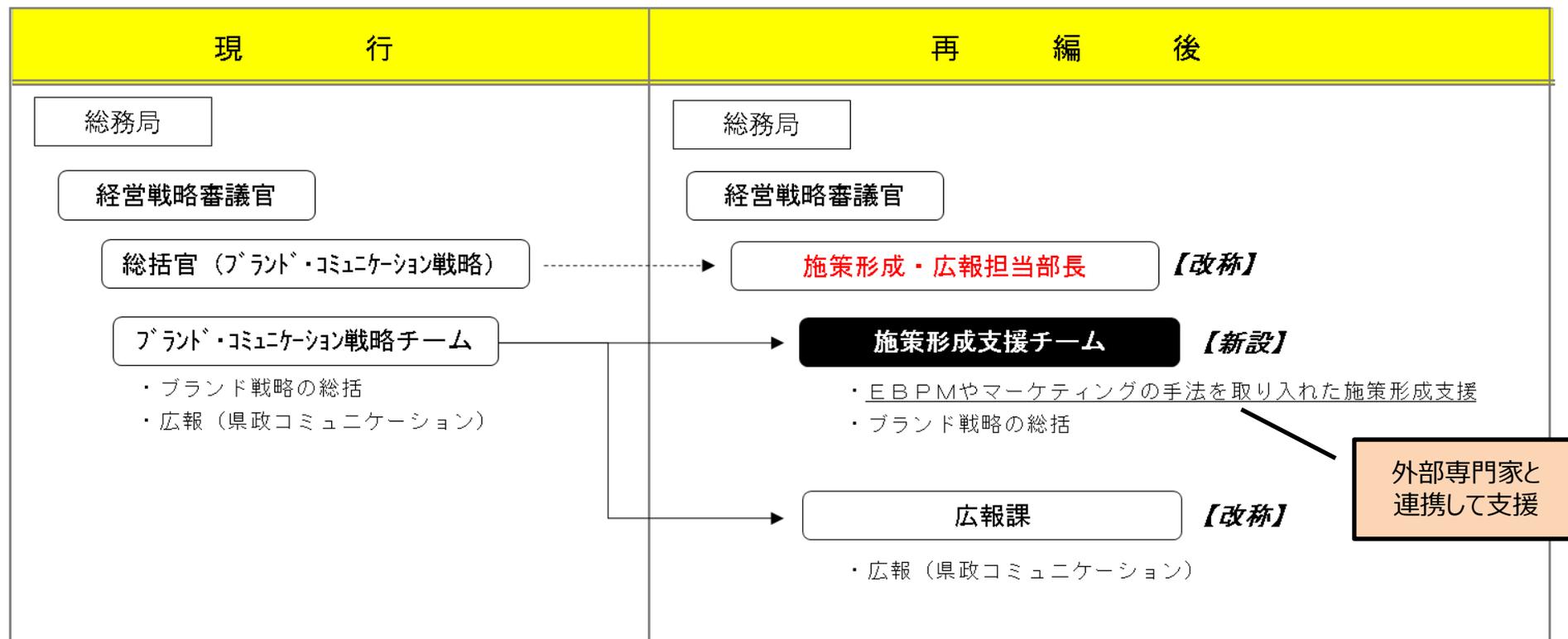
- 対応** : ○ 全施策を対象としたモニタリング等の中で、施策の磨き上げの必要性を議論
磨き上げのため、外部専門家と連携して、事業局の施策形成を支援することに特化した組織を新設し、庁内コンサルティング機能を強化
「施策をより良くする」という前向き感を醸成し、当該組織が支援する過程で、EBPMの考え方の浸透や、エビデンスをつかう・つくる意欲の向上、スキルの養成を図る。
- 目標管理型評価においても、指標間の連動性を評価することで、ロジックモデル・因果関係への意識を高める仕掛けを導入

- EBPMを実行するのは職員であるため、職員の行動変容をどのように引き出すのかという観点で作成



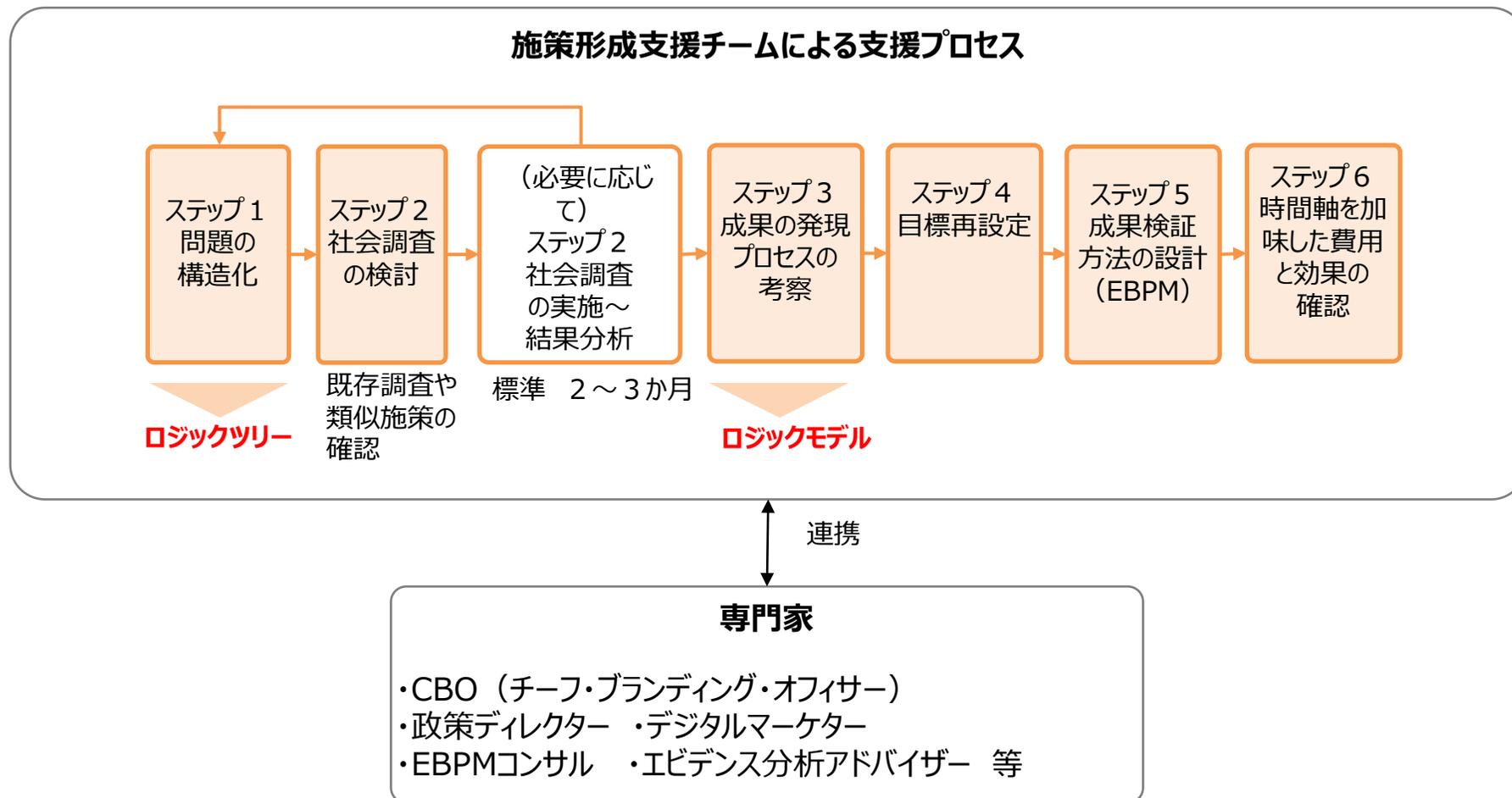
施策形成支援の体制

◇ 「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」(県総合計画)の目指す姿の実現に向けた施策の推進について、これまで複数の部署で実施してきたEBPMやマーケティングの手法を取り入れた分析や検討を行う施策形成支援機能を集約し、「**施策形成支援チーム**」を新設する。



施策形成支援のプロセス

- 質の高い課題分析を行うため、新たな社会調査の実施を含めて、十分な時間をかけて見直し
- 外部の専門家と連携し、技術的な支援を行う



目標管理型評価においても，因果関係を意識する仕掛けづくり

- アウトカム指標の目標達成状況だけでなく，施策の発展の目論見通り，アウトプット等と連動しているのかも含めて評価することで，ロジックの確からしさを検証する仕組みを導入（R4～）
- 目標管理型評価においても，事業の寄与や外部要因の影響を勘案した議論を行うことで，ロジックモデル・因果関係への意識を高めることがねらい

